

◆感想 参加者からの一言

御岳溪谷を眺めながら何時ものように参加者から今日の感想を伺った。

楽しかった、ために成った、サザンカとツバキの違いが解った、青渭神社が良かった、復習が出来たとの意見を貰いました。

◆12月の植物観察会のポイント2点

●ユズの生理落下について



「生理落下」とは、それぞれの果樹が果実を自らの力以上に着果した際に起こる現象です。開花直後の花や果実が風や雹(ひょう)、凍霜害などの物理的障害や病害虫、農薬害、あるいは成熟によっておこる以外の理由で落下することをいいます。

1本の木には光合成能力の限界があるため着果した果実を全て成長させることはできません。そこで過剰の果実をふるい落とそうとします。

物理的手段ではなく科学的手段を働かせ、果実自身がエチレンを合成することでま

だ若い果実は急速に成熟し親木から切り離されます。

このような落下は冷酷な現象ですが果実数が間引かれることで残った果実は十分な栄養を受け順調に成長し充実した種子を作れます。

いまのように収穫時期に至った柚子は若い時期に失った多くの仲間から託された使命を持っているので無駄なく活用出来ればと思います。

●ユズについて

- ・命名者：学名はオランダの医師シーボルト

シーボルトは 1400 種又、牧野富太郎は 1500 種の植物を命名。

- ・種の数：部屋は 10 室で 1 室に 2-3 個
- ・ユズの肌：柚子の香りが入っている油胞がくぼんでいて果面が荒くでこぼこ
- ・ユズの実の隙間：果肉は果実の成熟で発育を停止するが果皮が発育して膨らむ
- ・出荷量：高知・徳島・愛媛の四国が主

◆散策路の植物



幾代会のホームページを見て来て貰った梅田さんが嬉しい初参加。

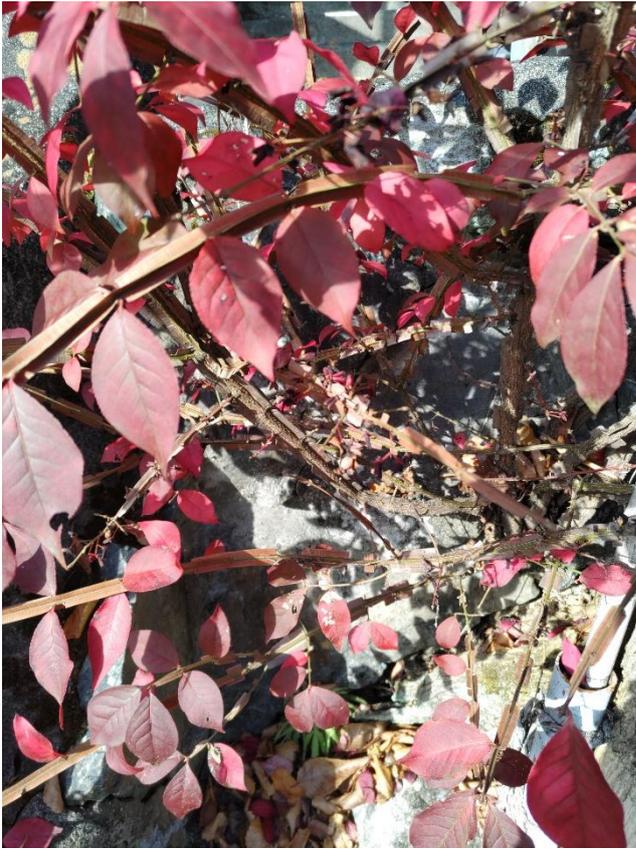
久しぶりに元気な武藤さんのにこやかな顔も見られ沢井駅で参加者 9 名が集合。

青梅街道より 1 本山側の道をおしゃべりしながら西に歩くと白やピンクの満開のサザンカの垣根。

「今年はサザンカの花がどこも見事です」

「サザンカとツバキの違いは？」の質問に太田さんから「サザンカの花はパラパラ落ちてツバキの花はポトリと落ちま〜す。」その他にも花が咲く時期は晩秋と早く葉の大きさはこぶりで葉や果実に毛が有る。

漢字では山茶花で同じツバキ属のチャ



ノキに対して山に生える茶という意味になります。

八雲神社では紅や白の実を付けたナンテン。

白い花は梅雨に咲くので長雨で受粉出来ないの実が付きません。

幹に翼を付けたニシキギ。

見くらべてみるとコルク層の著しく発達するものから、それほどでもないものまで変異が見られます。

そのことから、ニシキギの翼は一種の奇形ではないかとのことです。

翼はコルク層なので光合成にも寄与していません。

フ~~~~ン、そっか~~です。

青梅線を越えるとなだらかな斜面一帯に黄金色の実を付けた柚子畑。

石ガキに腰を下ろして水分補給と柚子の説明。

「先月の自己剪定の説明でショックを受けたのよ」と石川さん

確かに植物も生きてい行くのは厳しいです。

でも覚えて貰いありがとうございます。

そして12月もポイントの「生理落下」の厳しい現実のお話でした。

坂を登りきるとお日様ポカポカの田舎道の崖上には数本の桐の木。

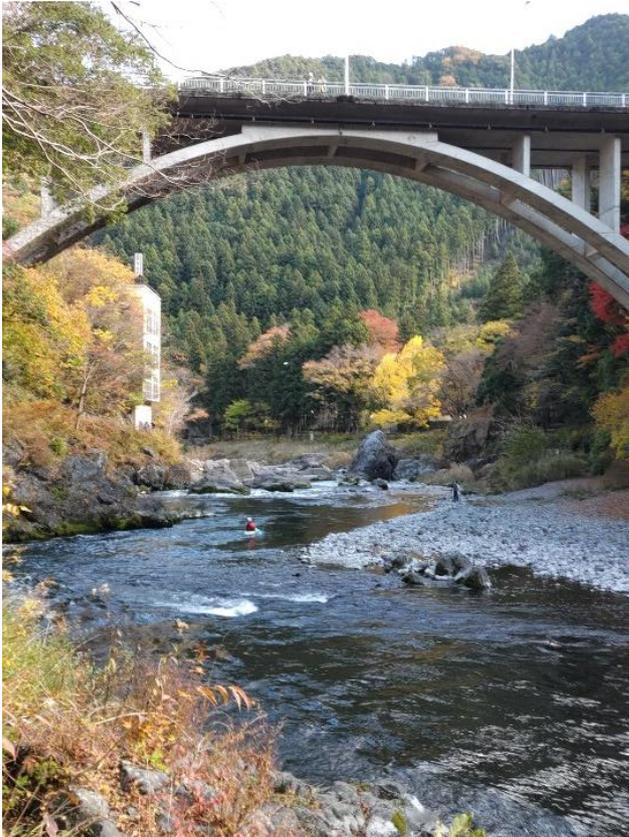
なんだか歌でも歌いたくなるような解放感です。

宇津木さんから「ずいぶん多くの女の子が生まれたな~~」

今日の宇津木さん。とにかくダジャレがバンバン飛び出て冴えまくります。

更に登るとほどなく青渭神社の拝殿に到着。





100 段近い石段を登ってお参り。
拝殿の右側に平屋を越える高さの立派な五葉松。

落ち葉を拾い「5 本あるかな〜」と本数を確認。

御岳渓谷方面に坂を下りると透き通ったオレンジのクコの実。

皆でチョットお味見。

美味しくないとの声。

でも、クコの実はビタミン・ミネラル・食物繊維・ポリフェノール・β-カロテンやリコピンなどのカロテノイド類・ビタミンCを豊富に含むため、「スーパーフルーツ」

「ウルフベリー」「ゴジベリー」の名称で、主にドライフルーツとして食べられます。

青梅街道を渡り鶴瀬橋の東屋でランチタイム。

東屋の3つのベンチに3人ずつ腰を掛け名残りの紅葉を愛でてお食事です。

武藤さんの英検合格を皆で拍手でお祝い。チャレンジ精神が嬉しいです。浅井さんから「日本の子供はひ弱で先が心配」との話題提供。

日本の未来を案じ、全員で多いに盛り上がりました。

食事後、岡さんは所用で早退。

御岳までの渓谷沿いは多摩川の巨岩を愛でながら行きかう人に注意しながらの歩行です。

神路橋手前でハクウンボクの実を見ながら〜。

これまで見た赤やオレンジが目立つ実でなく硬い種子がむき出しに成っ





て枝に垂れる。

色づかないハクウンボクは固い殻の中に油脂に富む中身を露出させヤマガラを誘います。

ヤマガラは食べきれない時は種を加えて飛び去り開けた場所の地面に埋める。、埋められたり落とされたりした種が芽を出します。

初参加の梅田さんが「何時も下見をされるのですか」「ええ」

下見なしではトテモお喋りできません。

今日の観察会ではスズメウリの白い実、フユイチゴの赤い実、クコの実も味見し、月桂樹の葉やセリの香りをかいで何時ものように五感で感じる観察会が出来ました。、



最後は神路橋を渡り多摩川の右岸を歩いて御嶽駅へと歩きます。

クリスマスの季節にピッタリのセイヨウヒイラギの赤い実が緑の葉に目立ちます。

モチノキ科、モチノキ属の常緑小高木。

御岳橋で直径6cぐらいのヤマナシを見ながら「ヤマナシは古くから自生している梨で、現在栽培されている原種です」

大村さんがすかさず「石なしのことですか？」

調べると同じものと判明！ほっ

ほっとしたところで今日の感想を貰い暖かかった今日と言うか12月というか今年の散策は終了です。

梅田さんに初参加して貰え良い、一年

のしめくりと成りました。

体調や所用等で参加出来なかった方は来年は元気な顔が見られますように。

皆さん、体に気を付けて良い新年を迎えてくださいね。

一年間、本当にありがとうございました。 （越前記）

